

目的 色彩“青”において、文献上に現れた連想用語は、非常に種類が多く、その内容意味も、多岐に渡っている。これらの連想用語は、色相、明度、彩度の三属性と、深くかかわりがあり、用いられる用語が違うのではないかと考え、調査によって、文献上の連想用語と、実際の色との照合を試みた。

方法 第1報の連想用語を、さらに意味の似ているものをまとめ、調査用語としては、145語にしぼり、以下の条件で調査をした。①被調査者：B大学短大部服装学科の1クラス59名、②調査用紙及び記入法：B₄1枚に、145語を記入しておき、該当するものに、いくつでも○印をつける。別に自由記入の欄を設けた。③提示色及び質：P.C.C.Sシステムの18B、半艶アート紙の9トーンを使用。④色の提示方法：B₂グレーのマーメイド紙にB₄の色をはり、1色ずつ提示する。⑤色刺激の時間：3分間見せ、2分休憩する。

結果 文献上に現れた用語は、いずれも、全部反応があった。最高は50%であったため、基準を20%のところにおき、それ以上の反応を示した語について、考察をした。①語数の最も多かったのは、ブライトで81語、反応が最も少なかったのは、ダルの4語であった。②各トーンごとに語数及び、種類が違い、そのことによって、トーンの特徴がみられる。③用語の面からみると、トーンによって、パーセントに高低があった。このことから、用語は、明度、彩度と深くかかわりがあるものと考えられる。④自由記入の語が133語あり、2語以上あったものは少なかった。このことは連想用語は、年齢、生活環境、時代、個人の性格などにより、変動があることを示しているものと考えられる。